

自らの孤独と向き合う姿勢を

ネット規制不可能？

禁止や規制をすれば、一時的な効果はあるが、長期的には、別の視点が必要だろう。

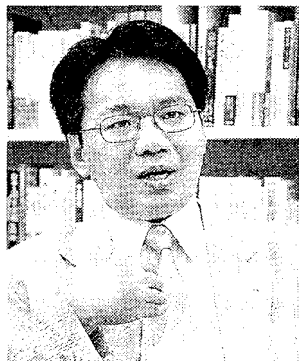
情報教育が始まった当初、子どもがネットを使えることは好印象だった。これに反し、佐世保小六事件は、道具の使い方や誤ると、どうなるのかを非常にリアルな形でわれわれに突きつけた。

パソコンを買い与えた大人は悩んでいる。できれば、使用に制限をかけた。

12歳のいのち

いま、伝えたい

同志社大学神学部教授 小原 克博さん



こはら かつひろ 1965年生まれ。同志社大学神学部卒、神学博士。宗教倫理学。2000年12月設立の宗教倫理学会事務局長。

及で、公園から子どもの遊ぶ姿を見かけなくなつた。これは、日本に限らない。多くの国で見られる現象だ。

や携帯などから強い影響を受けている。最近、気になるのが、メール感覚でしか文章表現できない若者が増えてきた点だ。頻繁にメールを送つてくると、顔と顔とが向き合うと、きちんと話をできないことがある。

ネットや携帯は人生にも影響を及ぼしている。人間は生まれてから死ぬまで、根源的に孤独を背負っている。そのことをかつては折に触れて経験する機会があった。しかし今は、孤独が非常に見えにくい。メル友やチャットのように、ネット上には、たくさんの逃げ場がある。

自分が浮遊しないように、つなぎ留めてくれる感覚がある。ただ、精神的な不安定な効果はあるが、依存しすぎると、「中毒症状」を起してしまう。

問題は、孤独と向き合えない成人の中にもある。年齢を問わず、しだいに増えてきているのではないか。

精神が成熟している子であれば、十代であっても自らの孤独と向き合いたい、親や友人と葛藤する。そして、自分なりに考えている。子どもが抱く人生の問いに対して、まじめに答えられる大人がどれだけいるのか。親や教師らが、もう一度、自らと向き合う姿勢も大切ではないか。

（聞き手 文化報道部・二松啓紀）

「おわり」

た範囲で、子どもにネットを使ってほしいと願っている。しかし、いくら技術的に規制しても、子どもは追いつき、すぐにその域を超える。

それよりも現実の世界と、ネットのように、バーチャルな世界との間をうまく行き来できないことに問題がある。ネットのルールをいくら説いても限界がある。現実世界に対する認識を、よくむ場所こそ求められる。

遊びは失われたか？

遊びは、現実世界を認識する絶好の機会だった。問題が起きた場合、解決する方法を見いだす貴重な場でもあった。

現代の子の遊びは劇的に変化した。誰もが知る通り、外で遊ぶよりも、家でテレビゲームをする時間が多い。ゲームの普及

携帯は人生に影響？

成人も同じく、ネット

メールをよくする人の

中には、一日に一通もメ

い、親や友人と葛藤する。

そして、自分なりに考

えている。子どもが抱く

人生の問いに対して、ま

じめに答えられる大人が

どれだけいるのか。親や

教師らが、もう一度、自

らと向き合う姿勢も大切

ではないか。



文化報道部・二松啓紀

「おわり」